

特定非営利活動法人 (NPO 法人)

地域生活サポートネットほうぷ

No. 2



〔1〕第2回子育て講座 (9月15日) を開催

お母さんが元気になるためのワークショップ
～子どもから離れ、たくさんおしゃべりをしてころをほぐしませんか～

吹田市で「子育て井戸端会議」などを開催されている子・己育ち相談「リリーフ」の山本さんの進行により、城北市民学習センター研修室にて、ワークショップを開催しました。運営スタッフ5名、保育ボランティア19名(うち学生ボランティア14名)で、親子分離をして行いました。親の参加者24名(うちファシリテータースタッフ4名)で4つのグループに別れ、子育てのしんどさや悩み、家族のことなどを語り合いました。笑いあり、涙ありの充実した時間となりました。皆さんのお話に出てきた「自分がいい母でないと感じた時の罪悪感」はなぜなのか?どこから来るのか?という山本さんからの問いかけや、子どものいじめに向かう親としての姿勢など、子育ての話を通して自分を見つめる機会にもなり、人と人が向き合うことの大切さを改めて感じさせられたワークショップでした。時間が足りなかった、定期的開催して欲しいという声が聞かれました。

(日本財団助成事業)



アンケート集計結果 (回答 24)

1. 本日のワークショップはいかがでしたか?

「いろいろ気楽に話せてとても楽しかった」「自分だけが大変でなくて、みな同じように感じながら子育てをしているのだということを感じられて良かった」というご意見をたくさんいただきました。初めて参加された方も、「どんなのかなとドキドキでしたが、とてもプラスになる話が聞けて良かった」という感想を書いてくださいました。この日は、子どもたちを別室で保育していたので、親同士ゆっくり話ができました。子育ての悩みは、ついつい1人で抱え込んでしまいがちですし、

子育てのことについて、お聞かせください。

ご自身はおいくつですか?

20代	3
30代	15
40代	3

(人)

こんなことを言ったらどう思われるだろうかという気持ちから本音で語れないことも多いと思いますが、「思っていることをそのまま話せるのは気持ちよかった」という方もおられ、ありのままの自分や相手を受け止めるという雰囲気の中、話ができただのではないかと思います。「1時間半は短すぎる」「半日くらいだったら、皆もっと本当に言いたいことが言えたかも」というご意見がありました。今後の企画に生かしていきたいと思ひます。

2. 子育てを楽しんだり、安心して出産をしたりするためには、どんなサービスや援助があればいいと思ひますか？

アンケートをとらせていただいた中で、「子育てを楽しんでいますか」という項目に「楽しい」と答えられた方が18人おられたのと同時に、「しんどい」「自信がない」「悩みがある」という答えも17人ありました。(複数回答あり。のべでは25人) そのようなときにどんなサービスがあればいいのかをお答えいただきました。

- ・ 今日のような子育てに関する集い・講座。
- ・ 親が自分の時間を過ごせるように、子どもを保育してくれるサービス。(低料金で)
- ・ 屋内の公園など、親子で安心して遊べる場。
- ・ 悩みを聞いてくれる場。

誰もが安心して子育てを楽しめ、悩みがある時・困った時に対応できる窓口がある地域。実現していきたいです。

当日は、千里金蘭大学6名、大阪保健福祉専門学校8名の学生が保育ボランティアをしました。子どもに接してみて感じたことを書いてもらいました。

- ・ 子育ては大変だと思った。お母さんはすごいと思った。
- ・ 子どもによって気性もいろいろだし、遊び相手でも大変だから、お母さんはもっと大変だなあと思った。でも、とてもかわいかった。
- ・ お母さんはとても大変で毎日疲れてるんだなと思った。
- ・ 子どもたちが何をしたいのを理解するのに苦労した。



お子さんはいくつですか？(複数回答)

1才未満	3
1～3才	15
4～6才	7
小学生	5
中学生	3
高校生	1

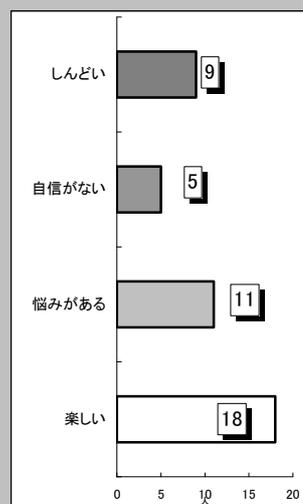
(人)

お住まいの地域

清水	1
新森	4
千林	0
今市	1
森小路	0
太子橋	0
中宮	2
大宮	2
生江	0
赤川	0
高殿	8
旭以外	3

(人)

子育てを楽しんでいますか？(複数回答)



〔2〕第1回子育て講座（7月1日）を開催 お話しの会

西区を拠点として活動している「まじょ魔女」の方々に、旭図書館の多目的室で、楽しいお話会をしていただきました。参加者は、43組の親子(母親だけの参加もあったかもしれません)と、旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」メンバー+保育所の保育士が10名と大盛況でした。（日本財団助成事業）



アンケート集計結果（回答34）

1. 本日のお話しの会はいかがでしたか？

- ・子どもと一緒に楽しめた。また来たい。
- ・ペープサート（大）、人形、大型絵本など色々なものが見れて良かった。ダンゴムシダンスも楽しかった。
- ・息子より母親である私の方が楽しんだ感じがする。
- ・ゆみ子ママがすごくおもしろかった。
- ・大きな絵本が見やすく、人形も出てきて楽しかったようだ。
- ・こんな本格的で大がかりなお話は初めてでした。人形や道具を用いてのダイナミックな読み聞かせにわくわくした。
- ・少し子どもにはわかりにくい点があった。
- ・手遊びが面白かったようだ。
- ・子どもも母親も元気をいただいた。
- ・ぬいぐるみや体を使ってのお話がおもしろかったみたいで、子どもも喜んで聞いていた。
- ・一生懸命やって頂いて、がんばりが伝わってきた。
- ・趣向をこらしたもので楽しかった。

子育てのことについて、お聞かせください。

ご自身はおいくつですか？

20代	13
30代	16
40代	4

(人)

お子さんはおいくつですか？(複数回答)

1才未満	3
1~3才	16
4~6才	6
小学生	3
中学生	1
高校生	1

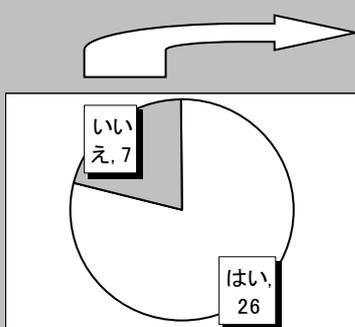
お住まいの地域

清水	1
新森	3
千林	0
今市	0
森小路	1
太子橋	0
中宮	7
大宮	1
生江	2
赤川	2
高殿	10
旭以外	7

子育てを楽しんでいますか？(複数回答あり)

楽しい…30 悩みがある…8 自信がない…2
しんどい…9

子育てサークルに参加していますか？



参加したいが近くにないため。必要性感じない。なんとなく。サークル/サロンの存在を知らなかった。その他・・・普段は保育園に行っているの。子どもがいない。

〔3〕「サークル虹」講演会（9月17日）に協力

子どもとともに育ち合う 手をつなごう 学校・地域
不登校の子どもたちが、安心して集える居場所、自分自身を出していける居場所として活動を続けてこられた NPO 法人青少年自立支援施設「淡路プラッツ」塾長 金城隆一さんをお招きして講演会が開かれました。「淡路プラッツ」は、フリースクールではない、フリースペースなのだという設立理念や、「待つ」ということをどう捉えるのか、子どもたちの成長を本当に「待つ」ということの難しさ、それを支える親を、さらに支えるスタンスで寄り添ってきたことを語っていただきました。講演後、参加者が感想や自分の思いを語る場がもうけられ、意見交流をしました。（主催 サークル虹&旭区社会福祉協議会）

アンケート集計結果

1. 講演についてのご感想

- ・淡路プラッツの様ないろいろな場所のある事が、とても救いになると思った。
- ・具体的なフリースペースの現状を聞いて良かった。
- ・待つことの難しさを再確認した。待つということに対する不安な気持ちが消えた。
- ・カウンセラーは道具であるというのが、とても新しいと思った。ホントそのとおりだ
と思った。
- ・今後、学校との関係、そして、こういう場をもっと知ってもらう活動をしていきたい
と思った。
- ・親（私）の感じている本人の様子と実際に抱いている本人の気持ちがたくさん違っていると感じる最近です。いいお話が聞けた。
- ・“価値観をかえる”というアドバイスが一番印象に残った。今関わっている“ひきこもり”の方への接し方も、今、ありのままの私で接していきたいと思った。
そして、私にできることを探していきたいと思った。
- ・参加して本当に良かった。まだ、始まったばかりで、先が見えず、思わず涙が出てしまった。少し、元気をもらって帰ることができる

2. ご自身のことについて

① 参加者 ・母親 11 ・本人 0 ・兄弟 0 ・教師 1 ・その他 2

② 居住地あるいは勤務先

新森:1 千林:2 今市:1 中宮:1 高殿:2 鶴見区:1 都島区:2 城東区:3

サークル虹

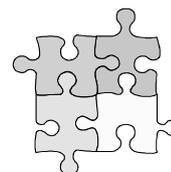
不登校の子どもたちの親が、一人で悩まずにお互いに支え合おうというセルフヘルプグループです。毎月第3金曜日の午後7時から「トモノス旭」で、定例会を開いています。
詳しくは、「ほうぶ」までお問い合わせください。



〔4〕特定非営利活動法人「あとからゆっくり」と交流(9月10日)

“ほうぶ”は、ボランティア募集に苦慮しています。そこで、ボランティアを確保し、さまざまな事業を展開している NPO 法人「あとからゆっくり」の活動を聞き、参考にさせていただこうと交流会を行いました。

当日は代表・副代表・監事・理事の4名で訪問。「あとからゆっくり」からは自立支援事業主担の高橋さんと、大東市で「おもちゃ図書館」を立ち上げたお母さん方4人来ていただきました。情報交換やお母さん方との思いの共有などを行いました。今後も、地域との関係作りやボランティアとの関係について意見交換などを行っていききたいと思います。



交流会で出会ったお母さんたち

参加の4人の母親たちの子どもは、知的障害をもっており、療育センター退所後、全員養護学校に進んだ。学校選択は、迷った末の決定だったと言う。就学後、地域とのかかわりが希薄だと気づき、孤立感を感じていた。養護学校で高等部まで進学した人が、成人式の日誰も知り合いがいなかったという先輩の話が紹介された。今回の母親も、地域の子ども会で無視された辛い経験を持つ。

そこで、療育センター時代の母親たち7名が中心となって「おもちゃ図書館」を立ち上げ、月1回の活動を行っている。仲間がいたからやってくることができたと言う。月1回の取り組みでは、子どもたちの生活が支えられないので、支援費制度を利用するために、複数の事業所を訪ね、「あとからゆっくり」と出会った。

はじめは、サービス提供者と利用者の関係だけだったが、様々な思いを話しあう間に、一緒によりよい実践をしていきたいという思いが強くなってきて、今夏のボランティア養成講座から、「あとからゆっくり」と協働していきたいと考えている。

NPO法人「あとからゆっくり」の歩み

1981年当時起こった障害児の家族の心中事件を契機に、全身性障害者が地域で当たり前に生きていく体制をめざし、全身性障害者の森修氏が立ち上げた。『青い芝の会』の運動にも関わって、学生が中心となって24時間の介護体制を構築してきた。現在までに、150名の介護者が育っていった。その後、森氏だけでなく、数名の障害者一人ひとりに介護グループを結成し対応してきた。以降、地域で暮らす全身性障害者の自立生活支援活動をおこなっていたが、地域の支援体制や障害者に対する理解が十分でなく、苦慮していた。2001年NPO法人格を取得し、今年度から拠点を四條畷市から大東市に移転し、種々の事業を展開している。

しかし、最近では、介護体制を維持するのが困難になってきた。従来は大阪教育大学での学生募集を中心におこなってきた。地域に目を転じてみると、地域住民の中に、介護者や支援者が育っていない現状があった。そこでは、地域の中で介護体制を支える取り組みができておらず、地域での啓発活動や支援体制の立ち上げを目的として、今夏、地域における福祉教育プログラムづくりをおこなった。

〔5〕夏休みボランティア体験「電車やバスに乗って出かけよう！」

8月11日(水)、小学5年生4名(うち電動車椅子使用者1名)、大学生1名、ガイドヘルパー1名と「ほうぷ」スタッフの計7名で、市バスや地下鉄に乗りに行きました。新森公園から蒲生4丁目までリフトバスに乗り、そこから赤バス(小型のノンステップバス)に乗り継ぎ、緑橋から地下鉄中央線に乗って、森ノ宮で鶴見緑地線に乗りかえ、大正区の障害者自立生活センター「スクラム」に行ってお昼を食べました。スクラムの方々から仕事の説明を聞きました。帰りは地下鉄鶴見緑地線に乗り、谷町6丁目で谷町線に乗りかえて帰りました。

バスはいずれも、車椅子対応で乗り降りに支障はありませんでしたが、乗り降りに時間がかかったり、車中で車椅子の場所確保のために他の乗客に立ってもらったりと、気を使いながら乗る状態でした。地下鉄の駅は、ほとんどエレベーターがありますが、森ノ宮の乗りかえでは、エスカレーターしかなく、駅員の介助でエスカレーターに乗せました。90キロ近くもある電動車椅子で、座面も低いので、危険に感じました。また、谷町6丁目の乗りかえは、改札の外にでて遠回りしなければなりませんでしたが、不便を感じながらも、みんなでワイワイ遠足気分で行って来ました。暑さの厳しい日でしたが、子ども達は元気いっぱいでした。

8月下旬の日曜日に、子ども達が集まり、夏休みの宿題の自由研究にまとめました。模造紙に写真を貼ったり説明をつけたりしてなかなかのできです。この体験が、心の片隅に残ってくれればいいなあと思いました。



私は、初めて赤バスに乗りました。人がたくさん乗ってきて、私の前に人が立ちました。みんなで席をゆずってあげました。バスや電車では、車椅子の子はどうやって乗ったり降りたりするかよくわ

前の日からずーっと楽しみにしていました。初めて赤バスに乗りました。ほとんどがお年よりの人でした。地下鉄の駅員さんは、電車がきたら、すぐに板を出してくれたりして、てきぱきとしていま

スクラムでは、いろんなことを教えてもらって行ってよかったです。

2つのことを感じました。1つは、何のためのエレベーターなのか、ということです。エレベーターまで長い距離を移動しなければならない。せっかく設置するのならば、もっと便利な場所に設置するのが良いのと感じました。もう1つは、障害者の自由についてです。電車の乗降時には、毎回駅員さんに言って板を持ってきていただかねばなりません。駅員さんが「まだ乗らないんですか?」と、急かせるように言ってきました。様々な事情があるのは分かります。しかし、こちらにも様々な事情があるし、駅に興味のあるポスターやチラシ等があったらゆっくり見たい。そういう個人の自由も奪われかねない、と感じました。1つ1つは小さなことかもしれませんが、それが積み重なり、居心地が悪く感じてしまったり、外

グループ紹介

旭区医療的ケアネットワーク **こころ**

「こころ」は、平成15年2月に医療的ケアの必要な子どもたちが地域で生活していくためにはどうしていけばよいかという課題のもと、旭区で暮らしている医療的ケアの必要な子どものお母さんたちが集まって立ち上げました。

定例会は、毎月第1金曜日の10時半から、旭区在宅サービスセンターで行っています。それぞれが抱える課題を話し合ったり、情報の交換をしています。医療的ケアの必要な子どもの多くは、24時間の介護が必要で、家族の慢性的な睡眠不足や、医療行為ということでヘルパーがその手助けを行えない現状で、家族の負担が大きくなっています。「こころ」のメンバーたちは、訪問看護やホームヘルパーなど、制度の利用もしていますが、それだけでは、十分ではありません。

リーフレットを作成し、ボランティアを募集しようとしているところですが、なかなか難しいのが現状で、ボランティア募集の方法について模索中です。子どもと遊んでくれる人、洋裁の得意な人、パソコンの得意な人、車の運転のできる人、そして、看護師の資格を持っている人、など募集しています。

最近では、お母さん方が各々で「こんなサービスの情報があったら悩まずにすんだのに・・・」（例えば福祉タクシーなど）と感じたことを持ち寄り、実際に利用した時の状況や感想も含めて、情報一覧を作成中です。「こころ」では課題は山のようにたくさんありますが、そんな現状を少しでも解決したいと考えています。

「こころ」の活動に興味を持たれた方は、ぜひ定例会にご参加ください。

（“ほうぶ”にご連絡くだされば、ご説明させていただきます。）

「医療」を受け続けなければ、生きていくことのできない子ども達があります。

「医療」から切り離すことのできない子ども達があります。

でも、病院で、家族と離れ、病室の天井や壁を見ながら生きていくのは嫌なので

です。家族の中で、親のぬくもりを感じ、兄弟の声を聞きながら、暮らしたいのです。

地域のつながりの中で、友達とともに育っていきたいのです。

そんな子ども達が、家庭で暮らすために「医療的ケア」という行為があります。

「こころ」は、医療的ケアの必要な子どもとその家族、そして、それを応援する人たちの集まりです。

子ども達の『ボクは、ワタシは、「ここ」にい「る」よ』という、こころの声が届きます。1日1日を懸命に生きている命の輝きを感じます。

こころ、つながる「こころ」です。こころ、広がる「こころ」です。

「こころ」の応援団になっていただけませんか？（「こころ」リーフレットより）

娘が、普通の子どもでないことを知らされたのは、妊娠8ヶ月の時でした。その2ヵ月後、生まれてきた娘を腕に抱いた時、そのなんともいえぬ重みと温かさが、私に「いのち」を感じさせました。

娘が、重い障害をもって生まれてきて、私は仕事を辞めました。会社という社会から離れ、その上、地方から出てきた私には、近所に親戚や知り合いがなく、社会から取り残されていく孤独感におそわれました。そして、慢性睡眠不足で24時間介護をする生活は、まるで体力の限界への挑戦のようでした。娘が、2歳の時、ボランティアの方々に出会いました。育児の手助けをしてもらう喜び以上に、地域とつながった安心感を得ました。今、私は、地域の中で、人とつながる温かさを感じながら暮らしています。

娘は、小学校5年生になりました。この10月で11歳です。身辺自立はできておらず、全介助が必要です。言葉もほとんどありません。でも、娘は、いきいきと毎日を生きています。気力が体力を引っ張っているような日々です。大勢の友達に囲まれての小学校生活で、娘は、人の中に「存在をする力」をつけました。娘にとっての自立とはなんでしょう。介助を受けながら、自分自身の人生を選び取っていくことなのだと思います。私を通して生まれてきた娘は、いつか私から巣立っていくことでしょう。

娘との暮らしはハプニングに満ちていて、私は、障害児の母の醍醐味を味わっています。早い強いが良いことと思ってきた私は、遅くて弱いことの中にステキなことをたくさん見つけました。かけがえのない「いのち」の娘と暮らしながら、あなたもわたしも、一人ひとりがかげがえのない存在なのだと教えられてきました。そんな思いを胸に“ほうぶ”を立ち上げました。

<相談から>

8月17日に「就学に向け先輩ママと話そうー障害児の親のための就学相談」を行いました。申込者は2名だけでしたが、先輩ママは、5名もボランティア参加があり、充実した内容になりました。小学校に入ったとしても、その中身は？という心配の声がありました。また9月には、来年度から養護学校へ行かれる予定の子どもさんのお母さんから、送迎についての電話相談がありました。いくつか情報提供をしました。校区の学校についてのお話もしました。後日、追加情報をお知らせしようとお電話したら、学校選択から考えてみようと思っているとのことでした。就学や進学についての相談の必要性を感じています。

障害児通園施設や養護学校、あるいは、地域の小学校への通園通学の支援についてのご希望も出ています。また、「支援費制度利用の申請に行ったが、子どもが小さいことを理由に許可が出なかった」、「ガイドヘルパーを利用しているが、支援内容に問題があるので事業者を変えたい」という相談もあります。私達がやらなければならないことが、本当にたくさんあると感じています。

＜活動報告＞（7月～9月）

（区在）：旭区在宅サービスセンター

- 7月 1日 第1回子育て講座 おはなしの会（旭図書館）
2日 旭区医療的ケアネットワーク「こころ」定例会（区在）
11日 第3回音楽広場の開催（城北市民学習センター）
12日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会（区在）
12日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
21、27、28日 障害児の母達による障害児の親のための電話相談
- 8月 6日 旭区医療的ケアネットワーク「こころ」定例会（区在）
8日 第4回音楽広場の開催（城北市民学習センター）
9日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
11日 夏休みボランティア体験
17日 「就学に向け先輩ママと話そう」障害児の親のための就学相談（区在）
20日 不登校の親の会「サークル虹」定例会（トモノス旭）
25日 草の根ネットワークねっこ定例会（区在）
- 9月 3日 旭区医療的ケアネットワーク「こころ」定例会（区在）
6日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会（区在）
10日 NPO法人「あとからゆっくり」交流会
13日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
15日 第2回子育て講座 お母さんが元気になるためのワークショップ
（城北市民学習センター）
17日 講演会「子どもとともに育ちあう 手をつなごう学校地域」
サークル虹・旭区社協 主催、ほうぶ協力
（旭区民ホール集会室1）
19日 第5回音楽広場の開催（城北市民学習センター）

（編集後記）

「あとからゆっくり」の訪問に行ってきました。当事者でもない、当事者の家族でもない自分がどういうスタンスで関わっていくか、さりげない場面、場面で自身に突きつけられることが多いという話題になりました。私もそう思う時があり、非常に共感しました。

しかし、話の中で、「みんな、立場は違う。当事者でも家族でもないけど、思いはあるということ、立場はぬぐえないけど、その違いのベースに同じ思いがあることをお互いが認めていけばいい、その胸につかえ、突き刺さっているものを常に自問自答し考えるということが大事」と聞き、今まで以上に「自分はこうしたいねん」という思いを大切に“ほうぶ”の活動に関わっていきたいなあと思いました。（よ）